

特定非営利活動法人

神奈川県環境学習リーダー会

会報 No. 58

2007年
8月 - 9月

～～ NPO 法人設立記念号 ～～



目次

役員会報告..... 1	エネルギー部会..... 5	て..... 9
特定非営利活動法人 神奈川県 環境学習リーダー会 設立..... 2	ケナフ部会..... 5	工場地帯のど真ん中に「人工干 潟」..... 10
「かながわコミュニティカレ ッジ」に採用..... 3	大気環境部会..... 6	ストップおんだん館自由研究 相談員をして..... 10
「子ども環境体験教室」を終え て..... 4	水環境部会..... 7	リレー登場
部会報告	廃棄物 GO3 部会..... 7	ぼくがこの会に入った訳..... 11
	グリーン部会..... 8	大葉の栽培..... 11
	会員の広場	掲示板..... 12
	3期生会員 田口汎君の逝去 を悼む..... 9	編集後記..... 12
	子ども環境体験教室に参画し	

役員会報告

(事務局長 川邊 敏雄、
事務局役員 土屋俊幸)

●8月役員会 (8月9日)

会員数は、正会員 154 人、賛助会員 18 人、特別
会員 3 人

1. 審議事項

①課題検討会経過報告

・7月30日に開催し、参加委員5名から各種提案
がなされた。次回8/17開催でつめ、9/15迄に答
申の予定である。

②部会現状調査結果報告

・4部会の活動現状報告を入手した。会の活性化に
情報共有し、どう展開していくかが今後の課題で
ある。

③支部設置

・NPO 法人設立後、現地活動を充実させるために、
県北(相模原)地区と県西(小田原)地区に支部
を設立することが地域活動サポート部会より提案
されていたが、地域サポート部長が欠席のため、
継続審議とした。

④細則の構築

・内規で明確にする課題についての報告があった。
今後、K・リーダー会規約にあって、特定非営利
活動法人 神奈川県環境学習リーダー会定款にな

いもの、および名簿管理、文書管理、交通費支給
の細則等、事務局で試案をまとめる。

⑤「かながわコミュニティカレッジ」応募経過報告
・内田役員に精力的にまとめてもらい8/3提出した。

⑥NPO 法人設立祝賀会開催

・9/30開催予定。実行委を事務局内でつくり、案を
まとめる。

⑦会計処理関連提案

・川邊事務局長、岩下役員が作成したものを確認し
た。詳細についてはさらに山本経理担当役員、岩
下役員、川邊事務局長の3者で打ち合わせる。

2. 追加審議提案

①エスコ事業提案

・公共施設の照明、冷暖房の省エネ調査をKリーダ
ー会として提案したい。エネルギー部会と具体化
検討する。

3. 情報交換会・懇談会

・役員会参加者のほか、草野郁大さんと高橋尚道さ
んが参加された。

●9月役員会 (9月13日)

名簿管理者が欠席のため会員数を確認せず。

1. 審議事項

①川邊事務局長退任について

・川邊事務局長が9月30日をもって事務局長を退
任される。次回総会までは理事としては留任する。

法人神奈川県環境学習リーダー会設立の申請書を神奈川県に提出し、9月5日に松沢知事より認証していただき、この認証書などの登記申請書類を特定非営利活動法人神奈川県環境学習リーダー会の主たる事務所の所在地を所管する横浜地方方法務局に同日提出し、受理されました。その結果9月5日に特定非営利活動法人神奈川県環境学習リーダー会は正式に登記設立されました。また、従たる事務所を所管する横浜地方方法務局茅ヶ崎出張所においても9月11日に設立登記が完了しました。

一方でNPO法人格取得後に備えての検討も進めました。平成19年度の総会、その後の設立総会でのご意見等を踏まえ、平成19年7月に安丸前代表を委員長とする課題検討委員会が設置され、NPO法人化に伴う課題を検討していただき、9月10日にその答申案が出されました。役員会でも並行して細則や課題について検討を続けており、10月の役員会で課題検討委員の答申の内容を含めて、当面必要な細則などは決定する予定です。

まだまだ課題は残されていますが、順次整備・決定していきます。

特定非営利活動法人神奈川県環境学習リーダー会の活動の原点は会員相互の親睦・情報交換・研鑽を積極的に行なうこと、およびその取得した知見を地域の環境学習・環境保全活動に活かす実践・行動力を発揮することの2本柱であると思います。



(NPO法人化祝賀会記念写真 9月30日)

☆☆

特定非営利活動法人神奈川県環境学習リーダー会が企画した「環境ボランティア養成講座」が「かながわコミュニティカレッジ」に採用されました！

代表理事 吉田 榮一

神奈川県が推進している「かながわコミュニティカレッジ」は松沢知事がアメリカにおける大学のコミュニティカレッジの体験から日本型にモデルチェンジして「地域で活動する県民のための“新たな学びの場”の創設をめざして」平成18年10月より試行を開始し、まず18講座を立ち上げました。平成19年度～20年度は試行拡大大期で15～20講座程度開催、平成21年度から30講座程度開催の本格開設

そのために、毎月の役員会の後の時間を情報交換・懇談会とし、定期的な会員の交流の場を広げました。また、神奈川県県民部NPO共同推進室が主催する、かながわコミュニティカレッジの「環境ボランティア養成講座」に対する企画案を役員中心で検討して、応募しましたところ、当会の企画が他の応募2団体より優れているとの審査委員の高い評価を得て、9月14日に採用が決定されました。今後とも皆様の知見と行動力をいただき、この2本柱に軸足を置いた活動が進めていけるようになればと思います。

これからも会員の皆様が総力をうまく結集して下さり、特定非営利活動法人神奈川県環境学習リーダー会がますます発展することを確信しております。

いろいろとご尽力・ご協力してくださいました皆様に心よりお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

期となる計画です。

したがって、当リーダー会の「環境ボランティア養成講座」は試行拡大の重要な時期に実施することになり、大変喜ばしいことであり、また重い責任の一端を担うといえます。

当リーダー会の講座の企画の趣旨・意図・目的は以下の通りです。

「環境分野の活動は、地球環境、生活環境、さらには自然環境ととても幅広く、また、それぞれの分野が相互に関連しています。このため、環境ボランティアとして活動するには、①関心のあるテーマの知識の取得、②環境全般に関する幅広い理解、③実践行動に必要な経験、行動力が求められます。

そこで、最新かつ広範な分野の環境情報や、神奈川県下での環境ボランティア活動の実践例を基にした講義に加え、実験・実習、ワークショップなどにより、環境ボランティアとして地域で活動するた

めの知識や技能を学び、さらに活動を進めるための人脈や地域を見つけ出せるような講座とします。」

この「環境ボランティア養成講座」には**3**団体が応募しました。その選考時の運営検討委員会でのご意見・ご要望（県提供の資料より。原文のまま）がわれわれの企画の意図や目的をよく表していますし、また高い評価を得ていることがわかりますので、以下に示します。

- (1) 環境ボランティア養成の必要性があると感じられる企画である。
- (2) 講義がバランスの取れた体系的なものであることや、市民環境活動報告会を特別講座に組み込むアイデアは評価できる。
- (3) 講座全体を通して、体験や実験、グループ討議などが取り入れられ、参加意欲を持続するような配慮がされている。講座への参加が地元の活動との接点にもなり、終了後の行動へのインセンティブになるといい。
- (4) “かながわ”を一貫させている点が、受講者の理解のし易さ、実践へのつながりに結びつく印象がある。
- (5) 各一日の午前と午後の講座の内容の組み合

わせに関連性の工夫が見られ、またグループ別活動も取り入れ、よいカリキュラムになっている。団体の活動実績も評価に値する。

講座のテーマは①大気環境、②地球温暖化・省エネ、③そら・明かり、④グリーン購入、⑤かながわの自然、⑥街づくり、⑦廃棄物、⑧水辺の水生生物、などで非常に広い分野を網羅し、講座実施期間は平成**20**年**1**月**15**日（火）～**3**月**25**日（火）全**11**回、**19**コマ（1コマ＝**90**分～**180**分未満）です。詳細は県のたより**11**月号や受講生募集要項（**11**月初旬発行予定）に掲載されますので、それらをご覧ください。

今後はこの企画の趣旨を講師の方々全員との共有化を図り、配布資料についてもできるだけ統一化することを検討しています。会員の皆様のこの環境ボランティア養成講座への参画とフォローアップをお願いいたします。



☆☆

「子ども環境体験教室」を終えて

神奈川県環境科学センター 田中 慶次

例年盛況の「子ども環境体験教室」も、今年で**6**年目を終えました。

今年も、各教室**24**名の募集を行い、応募多数のため受け入れ枠を**28**名まで増やしましたが、全ての教室が抽選となりました。**6**年目ということもあり、地域別では、平塚市からの応募は**130**名（昨年**180**名）と減少しましたが、市外からの応募が**101**名（昨年**19**名）、参加者の割合でも平塚市以外が**51%**と増加（市外参加者**17**年**8%**、**18**年**12%**）しました。また、例年のことですが開催時期の遅い教室ほど欠席率が高い傾向になりました。

今年は、平塚市以外からの参加が多かったためか保護者の付き添いが**81**名と増加（昨年**62**名）し、土日開催と、平日開催では保護者数に大きな違いがありました。

教室終了時に行ったアンケートでは、参加者及び保護者の**9**割以上が「楽しかった」と答えており、また、「環境への理解」という質問には、参加者及び保護者全員が「わかった」と答えています。

昨年の会報で、新たな企画をお願いしたところ、

今年度は、講師全員が**13**期生の「二酸化炭素について調べてみよう」が開催されました。連絡会からスタートしたK・リーダー会で、同期生が企画したのは自然なことですが、部会の枠を離れての教室は、今後の活動内容や幅を広げることに繋がると感じています。

（人数）

教室名	応募	参加者	欠席	保護者	計	
写真立てを作るう	7/26 木	32	26	2	7	33
節電コンセントを作るう	7/28 土	65	26	2	21	47
ソーラークッカーを作るう	7/29 日	49	25	3	23	48
二酸化炭素について調べてみよう	8/5 日	42	24	4	22	46
ケナフを使った自分だけのハガキを作るう	8/22 水	43	22	6	8	30
合計		231	123	17	81	204

K・リーダー会もNPO法人として新たな展開を迎えますが、センター主催事業としての「子ども環境体験教室」は今年で終え、来年度からは、公募型の県提案型協働事業「子ども環境体験学習推進事業（**8**月**14**日記者発表）」としての開催になります。

既存の枠にとらわれることなく、新たな発想や企画など、より一層の工夫や試行錯誤をお願い申し上げるとともに、K・リーダー会の更なるご発展をお祈りいたします。

☆☆

部会活動

エネルギー部会

部会長 安藤 紘史

活動予定（'07年10月～12月）

定例会（於：県民サポートセンター）

10月10日（水） 15：30～17：50 702号室

11月14日（水） 15：30～17：50 601号室

12月12日（水） 15：30～17：50 602号室

見学会（横浜市風力発電&水再生センター）

年内に計画中ですが日程等は未定。

アジェンダの日（リーダー会の一員として）

10月20日、21日に参加、省エネ実験等予定

横浜子ども科学館の環境教室

実施日：来年2月9日（土）午後。

活動報告（'07年8月～9月）

子ども環境体験教室（於：環境科学センター）

7月28日（土）午後、アース・エコと共同実施。

8月度定例会：

8月8日（水）16：00～18：00

場所：県民サポートセンター 601号室

参加者：岩沢、上野、小田、鎌田、児玉、長澤、藤木、二村、安藤

① 省エネゲーム「違い探し」について

家庭での省エネ方法を気付かせるゲームとして「違い探し」を紹介。啓発効果が大ききさそうなので、更にブラシアップのための意見交換を行った。

② 海洋開発研究機構主催セミナー「海から知る地球温暖化」報告

受講者より概要報告。海の熱容量の大きさ、海洋生態系の生産量の大きさ、北極海の気候への影響の大きさと海氷の脆さ等再認識させられる

最後になりましたが、全ての教室に足を運び、色々お気遣いを頂いた吉田榮一代表をはじめ、各教室担当者およびK・リーダー会の皆様のご尽力に、心より感謝致します。

事多々。更に、今年の北極海の氷の減少は記録に無い速さであり、その影響が懸念される。

9月度定例会：

9月12日（水）15：00～17：30

場所：県民サポートセンター 601号室

参加者：岩沢、香川、鎌田、児玉、長澤、藤木、二村、安藤

① GPN主催「500万人グリーン購入一斉行動」の一環として行われる「レジ袋を断る一斉行動キャンペーン」への参加を確認。

併せて、レジ袋1枚の消費エネルギーを人間のジョギングで体験する方法を紹介。

② 見学会検討。

横浜市の風力発電と水再生工場を見学すべく、折衝を続ける。

③ 著書「環境を守るほど経済は発展する」

ポスト京都議定書をめぐる議論の中で、大型炭素税等二酸化炭素削減の為の施策と国際競争力が相反するとの主張が予想される。その予備知識を得る為に、上記の本をもとに意見交換を行った。

・環境を守れば儲かる経済政策。

・物（資源、廃棄物）の流れが「見える」しくみ

・製造者責任の徹底

・サービスを売る経済への移行

・分散資源時代の自治体の役割等々参考になった。また、次の意見も出た。

・ドイツは温暖化効果ガス的大幅削減（東独統一効果を除いても10%近く）を実現しつつ、堅調な発展を続けている現状も上記を傍証している。

・貿易立国である日本こそ、新しい時代の競争力をつける為に、低炭素社会への誘導策を率先して行う必要があるとの意見等。

ケナフ部会

ケナフ部会長 荒谷 輝正

ケナフ部会員が携さわった2007年7月～9月までの活動及び10～11月の予定について報告します。

1. ケナフ部会定例会

・7月15日 ケナフ部会例会 ケナフ圃場の管理。

7月26日環境科学センター主催の「子ども環境体験教室 写真立てを作ろう」の準備。

・8月17日 ケナフ部会例会 ケナフ畑の管理。8月22日環境科学センター主催の「子ども環境体

験教室 ケナフを使った自分だけのハガキを作ろう」の準備。外部より売込みのCO₂センサーの説明を受ける。大変性能が良いので今後、教材として使えるとの印象を持つ。

・9月7日 ケナフ定例会。当日は台風の影響で圃場の作業が出来ず。11月4日に延期。

11月10日に横浜子ども科学館で開催する「古紙を使った写真立てを作ろう」の作業、参加者等の打合せ

2. 対外活動

・7/26 環境科学センター「子ども環境体験教室」写真立てを作ろう。アンケートからも大変好評であった。カッター、のこぎりを利用するので安全には充分留意したが、怪我無く終わったので一安心。

・なお、神奈川新聞、朝日新聞、読売新聞より取材がありました。



工作方法、注意事項を
話す古澤さん



真剣に聞く参加者

・8/22 環境科学センター「子ども環境体験教室 ケナフを使った自分だけのハガキを作ろう。」イン

ターシップの学生3人が手伝ってくれたので大変賑やかな講座になりました。



講座開始前、インターシップの学生も手伝ってくれた。



玄関前でケナフの茎をたたく



待望の紙漉き風景

3. 今後の予定

11月10日 横浜子ども科学館「カッター、のこぎりを使って写真立てを作ろう」開催

11月17日 相模原市公民館「環境講座 ケナフを使ったハガキ作り」

12月8日 平塚リサイクルセンターくるりん祭り「ケナフを使ったハガキ作り」

大気環境部会

部会長 猪股 満智子

活動予定 (10月~11月)

見に来てください!見やすい新マップ等々

10月20日(土)、21日(日)山下町貿易センタービル

県主催「かながわアジェンダ2007」展に出展。

07年6月度NO₂測定神奈川マップ3種と化学物質排出量から見た有害性(人の健康・生態系への影響等)など、県内、首都圏で比較したものを展示
農薬は化学物質規制からはNOマーク?!

11月に予定 県衛生研究所(茅ヶ崎市下町屋2)見学、学習会(テーマ;ADIと残留農薬、農薬使用法の具体例など)希望者は連絡を下さい。決まり次第連絡します。

連絡:tel & fax 0466-83-2006(立石)

大気環境学習会・NO₂測定にご参加ください!

11月24日(土)13時~学習会「最新の大気環境」

KERC 学習室 講師;相原敬次専門研究員

14:30~ 12月度 測定ろ紙充填等

測定日:12月6日(木)夕~7日(金)夕の24時間

分析日:12月15日(土)13時~ KERC 実習室

連絡:tel & fax 0467-32-6858(猪股)

活動報告(8月~9月) 主な報告のみ掲載

7月19日(木)13:30~16:30 NPOセンター大船

VOC・PRTRプロジェクト開催

平塚市上吉沢 農業技術研究所見学報告と、まとめ方、展示パネル化等について検討

7月28日(土)独・海洋研究開発機構「(4時間前の)大気汚染を予報する」に参加(伊藤、村上、猪股) 8月23日の全国紙に1月間の成果が掲載されたが、基礎データが天気予報であるため日によって大幅に狂うこともあるようだ。(インターネットで見られます。)リアルタイムの県、自治体間の防災無線に頼らざるを得ない感。それよりオキシダント発生原因の究明と抑制(=一人ひと

りの自制)が先決。

9月15日(土)13:30~16:45 NPOセンター大船
定例部会;伊藤、鎌田英、草野、立石、村上、猪股

・6月度測定評価・検討;NO₂測定濃度は測定開始以来最良の濃度(気象条件の影響大)。3種類に整理した共通地点別マップは分かりやすく説得力に。

水環境部会

部会長 斉藤 昭一

水環境部会、後半の日程です

「9月16日、10月21日、11月18日、」集合場所はJR線 鴨宮駅(海岸側)AM 9時です。どうか部会員のみなならず、リーダー会の皆さんの参加をお待ちしております。私達の活動は決してむずかしいものではありません。水の中に棲んでいる、石の下に居る水生生物を通して、その水環境の状態を調べる、簡単では有りますが大変に重要な役割をになった活動です。本年は「川の連続性について」の調査

・9月2日「かながわ電気自動車(EV)フォーラム」(県・EV普及推進協議会の主催)報告:昨年度の温暖化防止のつどいでの話題テーマの一つ。大気汚染なし、地域限定走行、家庭で充電可能な車の普及をめざす。各社09~10年度を目標にコンビニやファミレス等での急速充電をめざしインフラ整備にしのぎをけずることになりそう。

をエビ、カニ等、甲殻類を中心に調査活動をしております。どうか少しでも水について関心をお持ちの方は参加してみたいかがでしょうか。参加する方は「長靴」(膝下くらいの短いもので結構です)を、ご用意していただければ幸いです。その他のものは、こちらで用意致しますので、安心して来て下さい。

連絡先 住所 相模原市磯部 1346-10

電話・ファックス 046-204-4780

携帯 090-9014-5846

水環境部会7月の活動は台風5号のため、やむなく中止となりました。部会始まって以来の出来事でした。そのため今月は部活動の報告がありません。

廃棄物GO3部会

部会長 内藤 克利

1. 環境科学センター主催の「夏休み親子で楽しむ環境展」に参加

参加日:7月29日10時~14時

テーマ:ソーラークッカーを作ろう!(おんせんたまごはできたかな)

参加者:親子がほとんどで子ども28名。県下一円からの出席者で賑やかな雰囲気。

部会員5名で4つのテーブルに分かれて対応した。過去の経験から個人毎で作業速度が異なるため、次工程の太陽光を取り入れるスタート時間がばらつき、製品の出来具合がばらばらになるので1人がコントロールタワーとなり、作業開始。11時半には全員太陽光を求めて表に出たが、運悪く小雨模様。全員セットして2時間後「おんせんたまご」の出現を期待した。

その待ち時間を利用し、子どもたちに3Rの説明を行い分別の大切さを説き、お母さんと一緒にごみ分別作業をすることをお願いした。殆どの子どもは「はい」と威勢のよい返事が返ってきた。ついで昼食時間となった。

さて、たまごはどうなったかなと一斉にソーラーのふたを開けたが全員がっかり。

「お家に帰って、天気の良い日に自分でやってみるんだよ」の声に全員「わかった」で後片付けを行い、

子どもたちはエコバッグにソーラーを収納し帰宅の途についた。

2. 10月は3R月間

(3R=Reduce, Reuse, Recycle)

経産省の音頭で多くの団体が何らかの行事に取り組んでいる。リーダー会はグリーン部会が加入しているGPN(グリーン購入ネットワーク)のキャンペーンに参加する。

『GPN500万人グリーン購入一斉行動...買い物でレジ袋を断る...』

3Rには断る(Refuse)との言葉はないが、Reduceの行動プランのひとつと考える。この言葉は非常に重要であり「リサイクル」材料の削減と共に散乱ごみ(不法投棄)削減にも繋がる。

現在、レジ袋は年間300億枚生産され、その原料は原油換算54万klに相当する。単純計算でレジ袋1枚(10g)当たり原油換算で18gとなる。(コンビニで多く使われているものは約5g程度)

CO₂排出量(製造時+ごみ焼却時)=57g/レジ袋10g

レジ袋を断ることは勇気がいる。まずエコバッグ又はリユースのレジ袋を持参し、品物と共にレジ係に渡すと気楽にレジ袋を断ることができる。

もっと気楽な方法は「レジ袋不要を示すカード」がレジ近くにおいてあるのでそれを利用。

店を出たら周囲を見渡す。レジ袋が風に煽られている風景が見られるかも知れない。この風景はコン

ビニ店前が汚れている場合によく見かけられる。不法投棄の始まりです。

まずは「レジ袋を断る」を実行しましょう。

容器包装プラも増加傾向です。3R月間中は「プ

ラ」マーク付の商品は買わないとするとどのような生活になるでしょう。プラ不要のプランづくりも一つの考え方です。

グリーン部会

部会長 杉山 陽絵

<今後の活動予定>

・10月6日 環境学習指導者コース講座の一コマ「環境学習プログラムを体験！」講師

・10月～11月 鎌倉市立大船小学校にてグリーン購入に関する授業実施予定

・1月29日 横浜市港南区生涯学習講座の一コマにて、グリーン購入に関するプログラムを実施予定

■ 小学校での授業や生涯学習講座と一緒にプログラムを実施して下さる方を募集しています。グリーン購入に興味のある方は、ぜひお問い合わせください。

<活動報告>

8月7日 ミーティング

- ・今後の活動について
- ・買い物ゲームプログラムの改善・アレンジについて

8月16日 神奈川県消費者教育教員研修

「環境を考慮して行動する人に グリーンコンシューマーの理念」講師

9月14日 ミーティング

- ・10月6日実施予定講座内容について
- ・10月～11月に実施予定の大船小学校授業内容について

『GPN 500 万人グリーン購入一斉行動 買い物でレジ袋を断る』キャンペーンのお知らせ

10月1～31日までの1ヶ月間、当会も会員となっている「グリーン購入ネットワーク(GPN)」では、『GPN 500 万人グリーン購入一斉行動 買い物でレジ袋を断る』キャンペーンを実施します。これは、GPN 会員団体の会員や従業員約500万人が協力して一斉に買い物でレジ袋を断り、社会的なインパクトを与え、社会に対してグリーン購入を加速させる強烈なメッセージを送るとともに、参加者の意識向上や家庭へのグリーン購入の普及を目指すものです。

レジ袋は約300億枚/年間(1人1日約1枚)がごみになっていると言われています。GPN 会員500万人が1ヶ月間レジ袋を削減すると、1億枚以上のレジ袋が削減できることとなります。

もう既にレジ袋を断り、マイバックを愛用されて

いる方も多いと思いますが、ぜひこの機会にご家族やお知り合いにも協力を呼び掛ける等、皆様のご参加・ご協力をよろしくお願いいたします。

★ 8月16日に実施した「消費者教育教員研修」の報告

8月16日、神奈川県消費生活課が主催する消費者教育教員研修の一コマとして、「環境を考慮して行動する人にグリーンコンシューマーの理念」というタイトルで講座を実施しました。参加者は、県内小・中・高等学校の教員。家庭、社会、理科、美術、英語、体育など様々な担当教科の先生43名が参加されました。

地球温暖化をはじめとする地球環境の現状説明の後、講座のメインである実物商品を見比べての商品選びを行いました。グループ毎にノートや電球、果物など3種類について複数の商品を用意し、どのノートが環境負荷の少ないノートか、電球と電球型蛍光灯のどちらを選択するとよいかといったことを考えていただきました。自らの生活を振り返りながら商品を選んだり、知っている知識をグループ内で披露しながら議論をするなど、参加者一人一人が主体的に考える時間を持っていただくことができました。最後に、グリーンコンシューマーの考え方、商品選びのポイントについてお話し、終了しました。

- ・商品の選び方では、ほかの人の考え方を知ることができ視点が変わった(高校・家庭)
- ・グリーン購入の必要性がよくわかった。学校でも進めていきたい。(中学)
- ・商品選びのワークショップを実際にやったのがよかった(中学・家庭)
- ・環境を考慮することがあたりまえの世の中になってほしい(高校)
- ・身近から改善できるヒントが様々に得られた(小学)
- ・日常での消費行動を振り返ることができた(中学・家庭)
- ・授業での参考としてはもちろん、自分自身の生活の中でも実践したい(高校・体育)
- ・環境のことを考えて行動するというを、頭の中で整理することができた(小学・家庭)

等々の感想が寄せられました。グリーン購入の必要性や重要性が伝わったことをうれしく思うと同時に、

学校を通じて子どもたちにこの考え方が広がり、一人ひとりの購買行動を通じてグリーン購入が広がっ

ていくことを期待しています。

☆☆

会員の広場

3期生会員 田口汎君の逝去を悼む

古澤 正文（茅ヶ崎市）

神奈川県環境学習リーダー会の3期生会員だった田口汎君が去る7月18日に、腹部大動脈瘤破裂によって急逝されました。享年72歳でした。3年ほど前に肝臓ガンが発見されて治療のため、リーダー会の方は休会の状態でありましたが、その甲斐もなく亡くなられましたこと、心よりお悔やみ申し上げます。

彼は日蓮宗寺籍の家に生まれ、ご自身も僧籍をもっておられたが、学究の徒であり、東京大学名誉教授で、仏教哲学の大家中村元博士に師事し、仏教、仏像の造詣は深く、多くの著述を残されました。彼は更に平和活動、地球環境、自然保護、環境学習、教育にも愛着と情熱を持ち、多くの市民活動に参加しておりましたが、得てしてこれ等の活動が独善的になり易いものに対して、容赦のない批判を展開しては孤立する自由人でもありました。われわれのリーダー会の発足当時、会の運営について、各回の代表世話人の活発な議論が繰り返されましたが、そこには何時も、彼がいて、会のあるべき姿について彼の持論を展開していました、そんな元気だった彼の姿を思い出します。彼はまた情報センター出版局の記者でもありましたので、世界的な視野で環境活動に関する情報に明るく、それを一旦語り始めると区切り方が下手で聞く人を飽きさせたり、Eメールも矢鱈に長大になって多くの人に迷惑がられたりしましたが、今になって思うと、その熱意が懐かしく思い

出されます。会の流れのことを考えて、何遍か改めるように話をしたり、メールを入れたりしましたが、「自分でもよく判っています、心がけます」と聞き届けてはくれましたが、なかなか直るところまでは行きませんでした。何事にも真面目で、真剣で、勉強家で、しかも素直な性格の人でした。

われわれのリーダー会は今はNPO法人として立派な会に成長しましたが、今日の姿を形造る上に、彼も大きな努力をされた一人であると思います。不幸にも病を得て、われわれの前から姿を消し、遂に他界されましたことに深く愛惜を憶え、この追悼の小文をささげて、田口汎君の冥福を祈ります。

（広報部 鎌田追記：故田口様の最近のご活躍は<http://www.news.janjan.jp/editor/0708/0708060419/1.php> でご覧になれます。インターネット新聞へ活発に投稿されていたようです。）



故 田口様 左から2人目（児玉様提供）

会員の広場

子ども環境体験教室に参画して

貴戸 禎治（横須賀市）

今回、子ども環境体験教室の「二酸化炭素について調べてみよう」にリーダー会13期の長村さん、鎌田さん、船平さんと一緒に準備の段階から関わってきましたので経験したことや感想を述べたいと思

います。

たしか、4月の終わりくらいだったと思います。長村さんから突然、電話で、「環境科学センターで開催する子ども環境体験教室で温暖化に関する教室をやりたいので協力して欲しい」との要請がありました。正直なところ、長村さんの顔と名前が一致していませんでしたが、メンバーに知っていた鎌田さん、船平さんの名前が出たこと、昨年教室を手伝って雰囲気はわかっていたこともあって、了承の返事をし

ました。顔合わせをリーダー会総会の前でということを決めて電話を切りました。あまり考えずに OK したため、「大丈夫かな？」という不安と「なんかおもしろそうだな」という期待で顔合わせの日をむかえました。

リーダー会総会前に顔合わせ、長村さんから企画の資料をもらい、概要を聞いて、内容がほぼ決まっていることに安心しました。

5/19 は、1 回目の事前準備、長村さん作成の資料をもとにした実験内容の確認でした。資料は事前に送ってもらっていましたが、二酸化炭素の温室効果の確認をはじめ、さまざまな実験がありでやりきれかなと少々不安でした。やはり、細かな点で問題が発生、時間に収めるために実験内容を調整し、もう一度、通し実験することとし、解散。7/16 に各人が実際に実験を体験しながら通しで実験をやり、「これで、いけそうだね」と確認して当日を迎えることになりました。

8/5 本番当日、最初、私は上がり気味、子どもた

ちも遠慮がちでしたが、次第に慣れてきて、あつと言う間に時間が来てしまいました。

全般を通して、事前の準備が重要であることを感じました。また、実験が盛りだくさんであったため、メインの「二酸化炭素の温室効果」の実験が薄れた感もありますが、成功だったのではないかと思います。

最後になりましたが、環境科学センターの田中さんには、準備のご協力やアドバイスをいただき、ありがとうございました。



会員の広場

工場地帯のど真ん中に「人工干潟」

児玉 勇(横浜市)

昨年4月29日に当K・リーダー会も参加し、国・市・企業・市民団体でのイベント「よこはま水と緑の日」の会場である国土交通省関東地方整備局横浜港湾空港技術調査研究所(神奈川県橋本町 JR 東神奈川駅 徒歩 15 分)(一般に「横浜技調」と呼ぶ)は9月から着工して来年3月完成の見込みで構内護岸を人工干潟として整備を始めている。

同所は京浜工場地帯の最西端に位置し、干潟は考えられないような環境であるが、最近、100種類に近い魚や貝などの生物が確認され、市民やNPO 協働して自然体験活動を展開していた。

完成した人工干潟では東京湾での干潟再生の基礎調査、東京湾再生への関心を高める取り組みの一つとして横浜港奥部での海辺に親しむ場として提供される予定。

この数年、「横浜港に渚を」と働きかけていた地域住民はその第1歩として期待し注目している。

会員の広場

ストップおんだん館の自由研究相談員体験

長村 吉洋(川崎市)

神奈川県地球温暖化防止活動推進員として活動する中、夏休みに全国地球温暖化防止活動推進センター(JCCCA)の「ストップおんだん館」で、夏休みの自由研究相談員をやってみませんかという案内があり、参加した。

神谷町から5分程度の東京タワーが間近にそびえる

都心の一角にある同館は、日々、子供達だけでなく大人の人達もたくさん訪問していて、地球温暖化防止への関心の高さが伺える。たくさんの子供たちも見学に来るし、ちょっとしたイベントも絶え間なく行なわれており、スタッフも丁寧で、とても熱心に説明してくれ、小さいスペースながら充実した勉強ができる。展示パネルでは、さまざまな観点から、地球温暖化に関連した知識はもちろん、だれでもできる実践行動に結びつくような工夫が凝らされており、1年に何度も展示を変えているとのことであった。1度だけでなく何度も訪れている人達も多く、季節が変わるごとに、違ったテーマでいろいろなこ

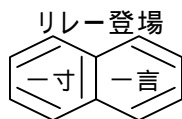
とが学べるのも、リピーターを呼ぶ理由になっているのかもしれない。

8月に3回程度の体験であったが、「ストップおんだん館」をよりいっそう身近に感じられるようになったし、たくさんの環境教育に役立つ内容を学ぶことができた。訪れてくる子供たちが、夏休みの自由研究に地球温暖化をテーマに選んで、自分でいろいろ調べてみようとして一生懸命、調べ事をしている姿を見ているだけでも、とても励まされ、未来ある子供達に多くの重荷

を背負わせてならないことを身にしみて感じた次第である。



☆☆



ぼくがこの会に入った訳

成井 正人（綾瀬市）

昨年3月末。職場恒例の北海道旅行に出かけるため、1年ぶりの休暇をとって駅で電車を待っていると、同行の課長から「成井はどうも異動らしいぞ。」と声をかけられた。思わぬ所で『内示』を受け、このまま北海道へ行っていいものか迷ったが、ホテルの予約も数ヶ月前からしてあることもあり、成り行きのまま電車に乗った。羽田から職場へ電話をすると、やはり内示は本当で、異動先は環境保全課ということだった。

環境保全課・・・市役所入庁以来んん十年余。これまで一度も経験がなく、課の漠然としたイメージ以外は今具体的に何をしている所なのか何も知らなかった。

楽しいはずだった北海道旅行も突然の異動内示の驚き？で、当初計画していたスキーなども取り止めて、毎日毎夜夢遊病者のように繁華街を遊び歩いていたのです。

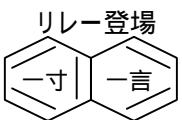
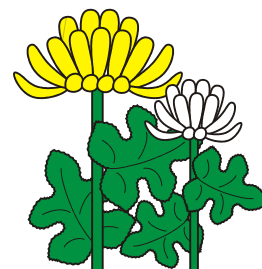
戻ってからの大変です。異動の煩雑さもさることながら、何をすべきかよくわからない。そもそも「環境」とは何なのか。漠然としたイメージだけでやっていけるものか。

勉強しなくてはいけない。具体的に日々進めなければならない業務も大切で忙しいが、それとは別に考え方のベースになるような知識や情報を見に着きたい。

そんな折に、環境科学センターの施設公開があることを知り、早速電話をした。施設見学には行かなかったが、そこで県民を対象とした講座があることを知り、半年待って受講した。これまでの漠然としていたイメージが頭の中で整理され、自分には関心がなかったと思い込んでいた環境問題に、随分前から関わっていたことも思い出させてくれました。

ほかの会員の方々の様に、環境問題について優れた知識や情報を持っているわけではなく、ました怠け者で本当に素人の私が「環境学習リーダー会」の会員などというのも気恥ずかしいことですが、ここから情報をいただいて、少しずつ勉強していくために入れてもらっています。今後もどうぞご指導ください。

今回は、同期の上野一郎さんをお願いしたいと思います。



大葉の栽培

藤木 浩（海老名市）

昨年から大葉の栽培に挑戦しています。植物の栽培はあまり知識はないほうなのですが、経営してい

る飲食店の食材にも使えるということで挑戦することにしました。発泡スチロールの箱に土を入れて買ってきた大葉の種を蒔いて毎日水をやりました。芽が出て大きくなってきましたが、出来上がったものは何か売っているものより小さいのです。昨年失敗した経験から蒔く種を少なくし相当間引きもしたつもりですが、小さくひ弱な感じがしました。やはり今年も種を蒔きすぎだったようです。そんなときに

自宅の裏に野生の大葉を一本発見しました。葉っぱも大きく幹も太く色も濃いものでした。その場所はあまり日があたる場所ではなく、他の草もいっぱい生えている場所でももちろん水なんかも全然あげていなかったのです。それが日のあたる場所に置いて毎日神経質に水をあげている私のものより立派である

とは。やはり動物でも植物でも野生のものは強いということでしょうか。来年はもっと種を少なくしてまた挑戦してみようと思いました。

リレー登場のバトンを受け取っていただける方は、広報部へ連絡ください。

☆☆

掲示板

■ 広報部からのお知らせとお願い

いよいよ当 K・リーダー会が、NPO 法人として再出発しました。この会報も装い新たにしたいと思います。ところが、なにぶん広報部の体力不足はどうすることもできません。ホームページの更新も滞っており、皆様には大変ご迷惑をおかけしております。

やはり、K・リーダー会は会員の皆様で作上げていくものです。これからますます当 K・リーダー会の本領が発揮される時となってきましたので、ぜひとも、会員相互の協力、情報交換はもとより、事務局や広報活動へのご支援をお願いいたします。

■ 広報部から会報発行について

会報編集・発行は会員の皆様のご協力により成り立っています。投稿、編集、発行へのご協力をお願いします。会報発行作業は通常、偶数月最初の週末、土曜日か日曜日の午前中に横浜駅西口、かながわ県民センターで行っています。参加可能な方は広報部（鎌田）までご連絡ください。

■ イベントのお知らせ

「地球環境イベント アジェンダの日2007」が開催されます。

当 K・リーダー会もブース展示を出しますので、ぜひお立ち寄りください。

日時：10月20日（土）10:00～17:00

10月21日（日）10:00～16:00

会場：横浜産貿ホール 1 階「展示場」（最寄駅：みなとみらい線 日本大通り）

内容：ブース展示、フリーマーケット

地元新鮮農産物の即売会

ソーラーカープラモデル製作コーナー

環境家計簿体験コーナー

ステージ発表、など

20日 10:30～“もったいない”から始めよう！ 作文コンクール表彰式、11:30～大学生・市民団体・企業が取り組む3Rへの挑戦

21日 13:30～かながわ環境大使・白井貴子さんのトークショー&ミニライブ、14:30～「一村一品・知恵の環づくり」in 神奈川 県代表発表



編集後記

今年の夏は暑かったなあ！と誰もが言っています。これまでにない暑さは、人々に地球温暖化の影響をひしひしと感じさせる年になりました。このような現象は、年々深刻さを増すのではないかと心配している人々は多いかもしれません。しかし、それに比較して、なんとか温暖化を食い止めようと努力している人々はまだまだ少ないのではないのでしょうか。今年の夏にきた台風も大型でしたし、7月末の台風による雨の影響は未だに残っています。大きな川はあれから一ヶ月経ってもまだ濁っているのを見ると、復活した鮎はひとたまりもなく消えてしまったのだなあ、胸が痛くなります。数ヶ月前たくさんの鮎が上ってきたと喜んでいたのに、人間の影響で、せっかくよくなった環境に追い討ちをかけるようなことをしているのではないのだろうか、つい考えてしまうこの頃です。

広報部 長村 吉洋

発行人：特定非営利活動法人

神奈川県環境学習リーダー会

代表 吉田 栄一

編集人：広報部長 鎌田 裕二

TEL/FAX 046-272-7021

発行日：2007年10月7日

ホームページ：

http://members.at.infoseek.co.jp/k_leader/